



SHIGA SMART ACCESS 2040s 移動しやすく、暮らしやすく、豊かな滋賀をみんなでつくろう。

## 「滋賀の公共交通 未来アイデア会議」 県民フォーラム

# “どうする？公共交通” をテーマに10/28(土)開催!!

これからの滋賀の地域交通について皆様と一緒に考え、議論する「滋賀の公共交通未来アイデア会議」 県民フォーラムを開催します。

### 1. 目的

県が現在、策定をめざす「滋賀地域交通ビジョン」について、地域交通の課題を参加の皆様と共有し、参加者同士の意見交換を促しながら、本県が目指す地域交通の姿を一緒に考えて議論し、その結果をビジョンに反映することを目的として開催します。

### 2. 会場・開催日時

- 会場：イオンシネマ草津（草津市新浜町 300 番地 イオンモール草津 3 F）
- 日時：令和5年10月28日（土） 13時から15時まで（入場30分前から）

### 3. プログラム・登壇者等 ※別添リーフレット参照

- プログラム  
ファシリテーターの進行により、前半は県の交通戦略課の職員がパネリストとともに公共交通を様々な視点から議論し、悩みもぶっちゃけます。後半は、WEBシステムを活用し参加者とパネリストが対話・意見交換します。
- ファシリテーター 山名清隆氏（株式会社スコップ ソーシャルコンテンツプロデューサー）
- パネリスト 川勝健志氏（京都府立大学 教授）  
土井 勉氏（一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長）  
公共交通未来アイデア実行委員会 メンバー（県職員等3名）  
滋賀県知事 三日月大造

### 4. 定員・参加申し込み

- 定員：会場定員 300 名（要事前申し込み）
- オンライン参加可能（要事前申し込み）
- 会場参加者にはもれなく「イオンシネマギフト」をプレゼント  
※オンライン参加者はプレゼント対象外



申込フォーム

## 5. 公共交通未来アイデア実行委員会とは

- 本年7月に県の交通戦略課の職員、税政課の職員および県と委託契約しているパシフィックコンサルタンツ株式会社の担当で「公共交通未来アイデア実行委員会」と称するチームを立ち上げ、「県民トーク」、「県民フォーラム」等を企画・実施し、目指す地域交通の姿等について検討しています。

## 6. 背景・経緯

- 県では、昨年度、「滋賀地域交通ビジョン」の策定に向けて、「目指す地域交通の姿」とその実現に向けた負担分担のあり方等について議論し、ビジョンの骨子を策定しました。
- 今年度は、目指す地域交通の姿等について、県民の皆様から御意見やアイデアをいただき、「滋賀地域交通ビジョン」に反映します。
- 御意見をいただく方法として、本年7月から、県の担当職員が各地に出向き、目指す地域交通の姿等について県民の皆様と対話を行う「県民トーク」を実施しています。
- これまでに、県内12の市役所・町役場、商業施設、病院等に出向き、来場者と直接対話し、9月末時点で計877通（Web回答含む）の回答を得ました。

## 今後の予定

令和5年	～10月	県民・市町・事業者との対話（県民トーク）
	11月	滋賀地域交通ビジョン懇話会 素案検討
	12月～	滋賀地域交通ビジョン（素案）パブリックコメント
令和6年	1月	
	1月末	滋賀地域交通ビジョン懇話会 案検討
	3月	滋賀地域交通ビジョン策定

1時間に1本も  
こーへんやん

車あるし  
今はいらんわ

ないと  
買い物にも  
行けへん…

滋賀県民のみなさんへ

どうする？

公共交通

バスで  
行こうよ

会議に参加して、  
あなたのアイデアを  
共有してください！

滋賀の公共交通

未来アイデア会議

2023年10月28日(土)開催

13:00~15:00予定(入場30分前~)

会場:イオンシネマ草津(イオンモール草津3F)

対面開催(定員300名様) + オンライン配信(予定)

当日は大型スクリーンに動画などを投影し、お手持ちの  
スマートフォンなどからアイデアを共有していただく予定です。

悩んでいます！

これまでの県民との対話では、公共交通が“必要”は約95%  
でも、乗っていないのが現実で、コストは増えていく一方…  
本当に必要な？どうやって維持する？  
どこまで目指す？どんな“まち”に住みたい？…  
我々は悩んでいます！  
滋賀県が抱えるテーマは、いまや日本全国の共通のテーマです。  
その滋賀県の選択を全国の人が見守っています。  
この難題を解決するためには、皆さんのアイデアが必要です！  
滋賀県のより良い未来を創るため、  
あなたの生で本音の話をスクリーンにぶつけに来てください！

公共交通未来アイデア実行委員会一同

対面でご参加の方にもれなく

イオンシネマギフトを  
プレゼント

全国のイオンシネマで  
ご利用いただけるギフト券です。

- 映画1作品の鑑賞
- ポップコーン(S)
- ドリンク(S)

※オンライン参加の方はプレゼント対象外です



ご参加には  
事前申込が  
必要です



お申込はこちらから

Web



X(旧Twitter)



【参加できない方】

QRコードのアンケートより  
アイデアを  
共有してください。



# PROGRAM

## ファシリテーター

株式会社スコップ  
山名 清隆 氏  
( 県職員 2名)



ユーモアでクリエイティブに活動している山名氏と  
交通戦略課の職員がパネリストとともに  
「どうする?公共交通」について考えます!

[山名清隆氏のご紹介] ※株式会社スコップHPより  
ソーシャルコンテンツプロデューサー  
1960年静岡県菊川市生まれ。EXPO85日本政府館ディレクター、米国フードトレンド情報誌U.S.FOOD JOURNAL編集長、テレビ朝日「東京ソフトウォーズ」番組キャスターなどを経て、広報企画プロデューサー会社(株)スコップを企業。公共広報・ソーシャルコンテンツ領域で独自のプロジェクト推進。愛妻の日を提唱する夫婦環境保全運動「日本愛妻家協会」やホメテ首都高の事故を減らす「東京スマートドライブ計画」などユニークなソーシャルムーブメントを進めている。

## パネリスト① (20分)

京都府立大学教授  
川勝 健志 氏



公共交通が発達した海外の都市からみる日本との違い

日本の地方都市の公共交通は本数が少ない等不慣れた乗り物のイメージがありますが、果たして海外では…

自動車と共存しながら公共交通に積極的に投資を行い、市民満足度約80%を達成しているアメリカのポートランドを例に、公共交通の可能性を探ります。ポートランドの実際の動画(予定)も交えて、公共交通が発達した都市の魅力について紹介していただきます。

[川勝健志氏のご紹介] ※京都府立大学HPより  
専攻分野: 財政学・地方財政論・環境経済学  
持続可能な地域発展と地方環境税を中心とする税財政システムのグリーン化に関する理論的・実証的研究、交通まちづくりと持続可能な都市交通経営に関する研究、北米のカーボン・ライジング設計論に関する研究

## パネリスト② (15分)

一般社団法人 グローカル  
交流推進機構 理事長  
土井 勉 氏



公共交通の価値や役割を一緒に考えよう

自動車は便利で快適に移動ができるので、みんな使っていると思いますが、公共交通が自動車よりも優れているところも少なくありません。例えば、乗るために運転免許はいりません。移動する人たちを束ねて運ぶので、道路の渋滞を減らすことができます。それに駐車場もありません。ですでお財布にも優しいかも知れません。さらに、多様な移動目的の人たちをまとめて運ぶことで“クロスセクター効果”という社会的な価値があることも明らかになってきました。

こうした公共交通の価値や役割について紹介していただきます。

[土井勉氏のご紹介] ※一般社団法人グローカル交流推進機構HPより  
京都大学博士(工学)、技術士(建設部門)、土木学会特別上級技術者(調査計画分野)、大阪大学元特任教授、京都大学大学院元特任教授、神戸国際大学元教授、阪急電鉄、京都市役所で勤務。

## パネリスト③ (10分)

実行委員会メンバー  
( 県職員 等 3名)

対話で話した意見、県職員等が悩みをぶっちゃけます!  
アイデア募集してます!

- テーマ①:自動車社会の中で本当に公共交通が要るのか?
- テーマ②:乗っていない中でどうやって維持すればよいのか?
- テーマ③:どんな公共交通になったら使ってもらえるのか?

※テーマは変更になる可能性があります

## パネリスト④ (15分)

滋賀県知事  
三日月 大造



なぜ今滋賀県で「公共交通」を考えるのか

- 滋賀県の公共交通の現状
- より良き自治への挑戦 ～県民の皆さんとの対話を通じて～

## ディスカッション (45分)

パネリスト  
+参加者

WEBシステムを活用した対話

会場・オンライン参加者からの疑問・質問・アイデア等をWEBシステムから投稿してもらい、パネリストとの対話や、参加者相互の意見交換を行います。

## ビジョンを広く共有するため、「滋賀の公共交通未来アイデア会議」を開催

今年7月よりスタート。商業施設や県内すべての市役所・町役場に県職員が出向き、**来場者と直接対話**。9月26日時点で**計877通の回答**を得た。※今後も引き続き開催。



### ■公共交通の必要性

「必要」が**96%**

### ■公共交通の利用状況

県内居住者では「ほとんど使わない」が**32%で最多**

使わない人も「他の人にとって必要」という声あり

### ■公共交通の維持・活性化に対しあなたができる行動

公共交通を利用する、もっと利用する	<b>37%</b>
現在と行動を変えない	<b>37%</b>
維持・活性化のために新たに負担する	<b>20%</b>

### ■新たな負担が必要となった場合の望ましい負担方法

県民全員に対しての税負担	<b>33%</b>
運賃値上げによる負担	<b>29%</b>
ふるさと納税を活用した負担	<b>20%</b>

### ■負担する場合の許容額

月100円増	<b>37%</b>	月500円増	<b>23%</b>
月300円増	<b>19%</b>	月1000円増	<b>14%</b>

### 自由意見など

- ✓公共交通が使いやすければ車を手放す選択肢はある。公共交通の充実のためには、車利用者への負担が良いのでは。
- ✓公共交通は移動時に寝ていられるのが便利。ただベビーカーの利用はしづらく、運行本数も少ない。
- ✓サービス向上のためには担い手の確保と公的支援の充実が課題。
- ✓通院や市役所に行くため路線バスは最低限必要であり、もっとお年寄りや身体の不自由な人にやさしい公共交通にしてほしい。